

「藪」と呼ばれる爽やかコース

「やぶづか温泉」コース 群馬県太田市

「やぶづか温泉」コース 群馬県 No.128
JOA 公認 No.639 8km 10 ポスト



尾根道はツツジの回廊

四半世紀を越えて現役

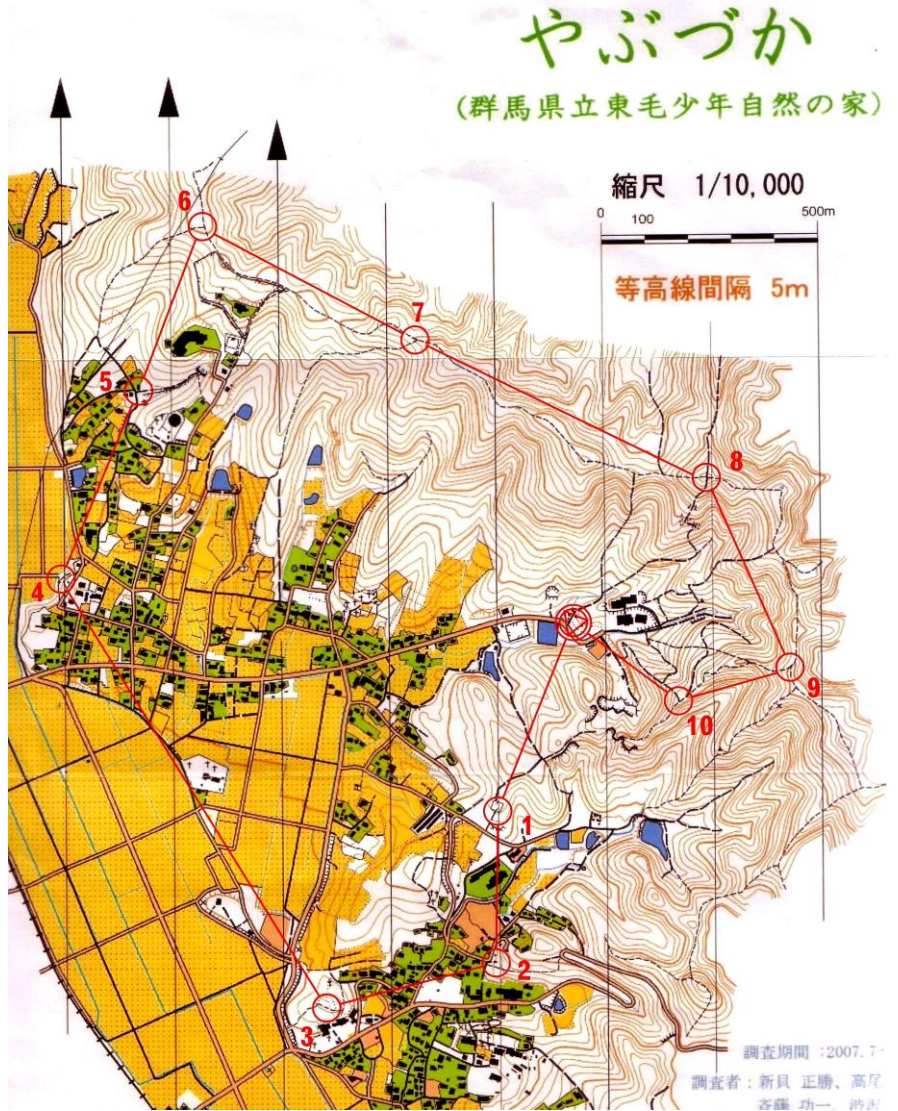
群馬県にはかつての元気だったパーマネントコースの雰囲気をおのままに味わえるところがまだまだ残されています。このゴールデンウィークに訪れたやぶづか温泉コースも 100 点満点の状態でも今も回ることができる貴重な存在です。

私にとっては 2 度目の挑戦になるわけですが、前は 10 代の頃。大学に入学して最初のパーマネントコースめぐりでした。1989 年 4 月 30 日ですから、四半世紀以上も前のこととなります。

今回の再訪は、同じく熱血 PC ファン太田市の住人土井洋平氏からのお誘いがあったためですが、久しぶりに訪れたやぶづか温泉コースは、以前の印象を大きく変えてくれる素晴らしいコースでした。

自宅の逗子から横須賀線と地下鉄銀座線を利用して浅草に向かいます。大人になったいま、最寄りの藪塚駅には、ちょっと贅沢をして東武鉄道の特急りょうもう号を利用することにしました。東武伊勢崎線沿線で生まれ育った私もりょうもう号は見るだけの存在で乗車するのはこの日が初めてです。群馬の工業地帯と都心を結ぶりょうもう号は平日の利用が多いようで、乗客の姿は数えるほど。連休の喧騒もなく、ゆったりとした心持ちで車中を快適に過ごします。7 時 40 分に浅草を出発したりょうもう 3 号は、9 時 12 分に東武桐生線藪塚駅に到着しました。

駅に降り立つとホームで土井氏が迎えてくれ、連れ立って車でスタート地点の東毛青少年自然の家（少年自然の家から改称）へ向かいます。歩けば 30 分かかる距離もあっという間に到着す



ると、何連もの鯉のぼりが風に吹かれ空を泳いでいます。通常休館は月曜日なのですが、祝日となった場合は翌日がお休みということで、ちょうどこの日は休館日。土井氏が以前歩かれた際に入手した地図をいただいて、歩くこととします。

管理は良好！

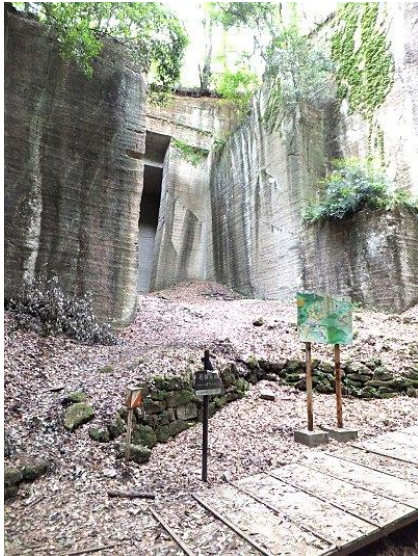
案内板は坂を下った野外炊事場の近くに 25 年前のまま立っています。マスターマップもはっきりと読み取れる管理のよさ。歩き始める前から期待が高まります。

以前のコースと比較すると、第 4 ポストが移設されている以外は当時のままです。小型だったポストは数年前に標準のサイズとなり、新設コースのよ

うな鮮度を取り戻しています。前半は史跡をめぐり、後半はハイカーも多く訪れる八王子丘陵のハイキングコースをめぐる全 8km です。

歩き始めるとすぐに、瀧の権現と呼ばれる滝野神社にさしかかります。鉱泉も湧き出し、かつては福寿館という宿泊施設もつくられ賑わったようです。土井氏の話では数年前まで建物も残っていたとのこと。ここから丘越えの遊歩道を進みます。尾根からの最短ルートは私有地のため回避すべきとの西久保氏のサイト情報を受け、そのまま南側を下っていくことにします。見所としてはこれが正解で、下り始めてすぐの左手には藪塚石の石切り場跡があります。明治中ごろから切り出しが始まり、昭和 30 年頃に閉山するまで、東武鉄道の

敷設を契機に盛んな産出があったそうで、藪塚駅のホームの土台にも使われています。その遺構はまるで宮殿のよう、とも言われ、壮観な光景が広がっています。藪塚を知る上では外せないスポットです。



石切り場跡

道路を経由して北山古墳に向かうと、以前よりも古墳に近い場所にポストは移されています。直径 22m という円墳で、7世紀前半のもの。中にも入ることができるのですが、狭いところが人の苦手な私は入口から覗くだけで遠慮させていただきました。

老人ホームの東側のルートを選んで到達する第 2 ポストはその名も温泉神社の境内に設置されています。起源を見てみると、かつて湧き出していた温泉が、あるとき茸毛の馬が飛来して一声なくと冷泉になってしまい、そのことを嘆き悲しんだ里人が薬師如来を安置したという伝承があり、近くでは今もやぶづか温泉の源泉が採取されています。

平成 11 年に天皇皇后両陛下が宿泊されたホテルふせじまの前を通り、第 3 ポストは西山古墳を目指します。こちらは前方後円墳で、さきほどの北山古墳よりも古い 6 世紀頃のものと思われています。北側から小道をたどり、丘にあがると古墳があり、林の中にあるポストも確認できます。

第 4 ポストはではこのコース一番のロングレグ。途中の見所はまず三島神社公園にある日本一の一本足かかし「かかまる」。高さはなんと 10m、手を広げた横幅は 7.5m もあり、案山子としての本来の目的は巨大すぎて果たしてないものと思われまふ。毎年秋に開催される藪塚かかし祭りのシンボルに

なっており、ゆるキャラ化もされています。余談ですが、2013 年のゆるキャラグランプリでは 886 位という不人気ぶり。こちらはなぜか二本足です。



その北にある長円寺は、本堂の色鮮やかな彫刻と隣接する古墳にある青面金剛が目玉。境内にある鐘は自動で撞かれる仕組みになっています。さらに北に向かうとポストは 2 体の不動明王を見守るようにして設置されています。近くにある廃屋の中には聞いたこともない力士名が記された木製の相撲の番付が放置されており、何やら怪しげな雰囲気醸し出しています。

平地のエリアは次の第 5 ポストで終了です。ネギ畑やすでに生産をやめている桑畑の合間に「ご自由に摘んで食べてください。美人になれます…?」という立て札のある、かき菜の畑が広がっています。菜の花のような黄色い花が咲き誇るかき菜は両毛地区で栽培される伝統野菜で、古くは「佐野の莖立」として万葉集にも登場する代物。主にお浸しにして食べるものようです。特徴のない道端でポストを発見し、いよいよ後半の山道に入っていきます。

爽やかな尾根歩き

イノシシ退治の罟の横を抜けると山道が始まります。藪塚という地名ながら山道が藪に覆われることは一切なく、きわめて快適な森林浴が楽しめるルートが続きます。東西に伸びる尾根道に到達すると分岐の脇で第 6 ポストを確認します。

天候もすっかり回復し、爽やかな微風に包まれてたいした汗もかきません。その心地よさにいつまでも浸っていたい気分です。途中、林の伐採された一帯では眼下の見晴らしも抜群です。第 7 ポストは鞍部の分岐に立っていました。

第 8 ポストに向かう途中で出会ったご夫婦の奥さんに「花がきれいよ」と告げられ、それから間もなく満開の山つつじが咲き誇るエリアにさしかかります。花は小ぶりながら、山道の両脇

に広がるピンク色の絨毯は、この季節ならではの景色です。この後も長く山つつじの回廊は続いていきます。コースの最高地点の頂に第 8 ポストがあり、ここに至る坂道が最も足が重く感じることでしょ。

さあこれできつい坂道は終了と思いたいところですが、ここで土井氏から「青少年自然の家を利用する人は 100%行く茶臼山に行こう」という提案。桐生市を一望できる素晴らしい景色が広がっているとのことで、コースを外れて北に向かいます。実はこの茶臼山、開設当初に使用されていた地図にはコース外でありながら、コースの特徴として言及されています。設定にあたり、何としてもコースに入れたかったようですが、大きく出戻りをする区間になってしまうため、やむなくカットした経緯があったそうです。何組かのハイカーとすれ違ったことから、この山の人気ぶりは伺えます。到達してみると標高 293m という低山ながら大パノラマが展開され、わざわざやって来た甲斐は十二分です。このときの気温は 18 度。最高の快適さでした。

第 8 ポストに戻り、コースが南に転じる地点からやや奥にある八王子山の山頂に立ち寄ってみます。そこには元禄時代に立てられた山頂の碑があり、「八王子」とのみ記されています。なぜ「山」の文字を省いたのかはわかりませんが、現代に立てられた「八王子山頂」の看板との厳格さの差は歴然。昔はいい仕事をしていました。山道の分岐で 9 番、10 番と順調に発見し、最後のアトラクションである鎖場までやってきます。迂回ルートもあるのですが、ここはチャレンジ。土崖に設置された 6 本の鎖のうちの 1 本を握って下っていきます。こんなにすんなり下れないのかというくらいこずりながら降りてみると、「くさりを使っておりないでください」という表示。そもそも下るものではなかったようです。ここからゴールはすぐ近く。ゆっくりと 3 時間以上かけて終了しました。

太田市街で名物の焼きそばでも食べて帰る予定でしたが、あいにく時間が悪く営業している店に出会えず、今回はあきらめて太田駅で土井氏と別れました。

やぶづか温泉コースは、オリエンテering未経験者を間違いなく虜にすることでしょう。気候のよい日を選んでお出かけください。

(2014 年 5 月 6 日 踏破)
(大高竜亮)